

1 オルムステッド(1822-1903)

- 1) 船員、農夫、作家、冒険家、35歳でランドスケープに関心 (28オイギリス訪問)
- 2) 都市における自然美の主張 過密不衛生都市の改善
- 3) オープンスペースの整備、植樹 肉体と精神の蘇生
- 4) 景観の美しさ 都市の資産価値の増大、税収の増加 専門家の重要性
- 5) ニューヨークのセントラル・パークの設計(1858)
- 6) パークシステムの提案 ミネアポリス(1883), カンサスシティ(1885)ボストン(1890)

2 シカゴ万博(1893)とバーナム

- 1) 1871シカゴ大火からの復興 1893世界コロンブス博覧会 2000万人
- 2) オルムステッドとバーナムが場所選定と監督
- 3) 近代的技術と古典的な美術 [ホワイトシティ]
- 4) 各地に都市美団体の創立 美化団体 180(1889) 公共建築の装飾
- 5) 「シティ・ビューティフル」と呼称 全国への呼びかけ
- 6) 美化協会全国連盟 NTJA(1900) → 都市美化アメリカ連盟 ATCA(1902)
- 7) 村落美化運動(1882) 首都ワシントン計画(1902)都市美マスター・プラン

3 都市美運動の展開

- 1) 美化団体の急増 300(1901)⇒700(1902)⇒1740(1904)⇒2426(1905)
- 2) ダニエル・バーナム(1846-1912)シカゴ博設計監督 ギリシャ・ローマの古典様式
- 3) チャールズ・マルフォード・ロビンソン 美化運動の紹介『町と市の美化』(1901)
- 3] 担い手 都市の上中層階級の男性と夫人
- 4] アメリカ都市協会(ACA) ACLA+アメリカ公園・野外美術協会
- 5] マスター・プラン重要性
- 6) ①シビックセンター ②鉄道駅③広大な並木道④パークウェイシステム⑤遊び場、運動場

4 都市美運動への批判

- 1) ベンジャミン・マーシュ(1879-1953)『表面的なお化粧を重視しすぎる』
- 2) ドイツの都市計画制度 [土地公有化、郊外地統制、土地税制] の紹介
- 3) 人口過密の弊害を隠す パークシステムへの大量資金投入
- 4) 資金の使い方が富裕層。有閑階級のみを利する
- 5) 都市美以外の計画手法の重要性 高さ制限、交通機関、地域制

5 都市美の再評価

- 1) 1920代 機能性、効率性への過度の傾斜 ドイツ人ヘーグマンの都市美推奨
- 2) チャールズ・チーニー(1884-1943) 街路のアーケード化 質の悪いデザイン規制
公園都市運動と結合した都市像
- 3) 市民運動への期待と評価 市民リーダーの発見、教育キャンペーン、専門家